

2017年10月15日 017D組
箱根旧街道ハイキング

10月15日(日曜) 8:20 箱根登山バス乗り場集合

参加者：柴田、小林、播磨、樋口、松永、蠟山

終日小雨模様の天気予報。しかし、蠟山からは小雨の中の箱根旧街道も趣があってよいと実行の連絡。しかし、全員参加する。

若いのか、付き合いが良いのか・・・

8:25 にバスは出発。70%ほどの乗客で、ゆっくり座れる。小一時間で、箱根町港に着く。



雨の中を歩く合羽などを着る。遠くの山はかすんで見えない。箱根関所の近道案内で、お土産屋の中に入る。当然買い物はなしで素通りする。

箱根の関所の入場券売り場のおばさんは、皆さん同じ昭和21年なのですねという。高校の同級生ですからという。



仲が良いのですねとおばさん。京口御門で記念の集合写真を撮る。



箱根関所跡は平成19年(2007)に復元され、まだ新しい。

解説>江戸時代末期に行われた箱根関所の解体修理の詳細な報告書である『相州御関所御修復出来形帳(慶応元年:1865)』が、静岡県菟山町(現伊豆の国市)の江川文庫から、昭和58年(1983)に発見されました。箱根町でこの資料の解読を行った結果、当時の箱根関所の建物や構造物などの全貌が明らかになりました。そこで、平成19年(2007)春の完成をめざして発掘調査を行ない、その成果や資料の分析結果に基づき、建物の復元や関所周辺の

環境整備を行うことになったのです。

厩、大番所・上番休息所、足軽番所を順に見学。足軽番所には、刺股、突棒、袖搦の捕り物3点セットが置いてある。痛そう。



小山の上にある遠見番所に行くには階段を登らなければいけない。芦ノ湖の景色だけではと今回は登らず。



江戸口御門から出て、箱根関所資料館に入る。日本地図にお城のマップがあり、蝨山が最近巡ったお城などの話をする。

解説>各種の関所手形をはじめ、象が関所を越えた話や関所破りの記録、関所日記書抜などの古文書、武器類などを展示している。

恩賜箱根公園の駐車場を通る。ここから箱根の山の方の写真を撮るが、山々は白くかすんで見えない。箱根の杉並木を歩いていく。そびえる杉並木でますます薄暗く感じ

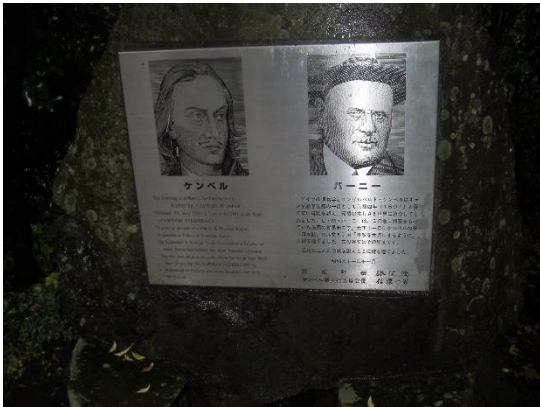
る。人間が小さい。



この杉並木も年には勝てないようで、土壌改良対策などの保護をされている。杉が少しねじれながら大きくなっているのを見て、柴田はこれで頑丈に高く育つという。



箱根神社もかすんで見える。元箱根港の前の鳥居の手前を右に曲がっていく。静かな杉の林の中に、ケンペルとバーニーを讃えた碑がある。



甘酒を頼む。おいしかった。さらに自家製のみそおでんも食べる。おにぎりなどを食べる。



小茶屋も使用している木材は古いが、新しい建物だという。

さらに畑宿まで行くことになる。追込坂から旧街道を歩いていく。下りになってきた。



三百年も前に日本の美しい自然と箱根の歴史や動植物を初めて世界に紹介してくれたここから石畳の登りが始まる。傘を差しながら、滑りやすい石畳を注意して登っていく。



緩い下り、階段での急な坂下りなど、足腰を痛めつけられる。足腰の弱りからか、滑ってすっころぶ人も出てきた。ゆっくりゆっくりと蠟山が言う。途中国道に沿ってしばらく歩く。



権現坂や二子山の案内がある。第一の目標の甘酒茶屋が近づいてきた。休めるな、お昼だ、そのあとどうするだろうか。寒いので全員暖かい



畑宿からはバスで湯本まで行くことになる。もう足の限界だと思っていたので良かった。少し待つとバスがやってきた。箱根新道沿いの国道だが、道が細くすれ違いに運転手は気を使っている。



箱根湯本駅に着く。橋の上の建物は柴田の会社で設計したとか。残念ながらすぐにつぶれてしまったとか。湯本駅の前で箱根湯寮の送迎バスに乗り込み、急坂を上っていく。途中で降りる人はいなかった。温泉にゆっくりとつかる。暖かくて気持ちが良いが、露天風呂では雨粒が顔にあたってくる。お湯の後はゆっくりと懇親会。会話も弾むが、日本酒もどんと飲まれていく。



海の幸や山の幸などもお替りする。皆おながすいていたようだ。



2時間ほどいたのだろうか？湯本駅で別れる。お疲れさまでした。

昨日は、小雨にシッポリ、温泉にシッポリ、お酒にシッポリ。お疲れ様でした。また、楽しい色々な話を有難うございました。今日は地下鉄の階段（最低限の体力維持のため、エスカレーターには乗らないようにしています。）の上り下りに足の内側や股関節がギシギシときしむ感じで四苦八苦でした。これも楽しかった一日の名残としましょう。皆さんは足、大丈夫だったでしょうか。